

ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者はみな、そのとおりです。」

梅雨の合間にふと空を見ると、この時期特有の雨雲が点在していた。大きな塊で一か所に留まらず、少し早い速度で移動している。反対方向からはやや明るい雲が流れて来て、真上で出会っている。さらにその移動する雲の上には青空が時々見える。その高さにも薄い雲が移動している。雲が重層して流れる複雑な梅雨空にしばらく見とれてしまった。

雲を移動させる風の行方は分からない。ただ、雲の流れでどちらの方へ流れる風か見えるだけである。なにか決まったルートが空にあるわけでもない。なにかに制約されることもなく、空一面に繰り広げられる極めて自由な流れだ。

それにしても、風はその思いのままに吹き、とあるのは不思議だ。風に思いを与えるお方がいるのだろう。風を支配するお方がいる。御霊によって生まれる者は、御霊に導かれるまま進む。その歩みは当人さえ全貌を掴めないほど自由である。この御霊にある自由を生かされる。